

P1-003

ASD児の他害行動改善を目指した特別支援学校の取組とそれを支援する保護者の「安心感」に関する一考察

和田 充紀

富山大学 人間発達科学部

【問題と目的】

自閉スペクトラム症児童（以下、ASD児とする）を養育する保護者の「困り感」や「ストレス」に関する研究やASD児の問題行動に対する効果的な支援方法についての研究は様々みられるが、ASD児を支える保護者の心理的安定につながる要因や有効な相談のあり方については明らかではない。そこで、ASD児の問題行動改善に向けて保護者が特別支援学校に望む対応や情報提供、連携のあり方など、保護者の「安心感」につながる要因について検討することを目的とした。

【方法】

対象は、ASDの診断を受け特別支援学校に在籍している小学部6年生児童1名とその母親である。平成X年4月から翌年3月までの期間、A特別支援学校において問題行動改善に向けた児童への支援と母親への面談を継続して行った。学校での取組や、保護者への対応と情報提供が保護者の「安心度」にどのように影響を与えるのかについて、それぞれの時期において計12回の面談による聞き取りを行い、「安心度」の数値化をはかるとともに面談記録の分析を行った。なお、面談の記録と結果公表については対象者の同意を得て実施した。

【結果】

「他害行動が連続して生じた時」と「学校から状況説明のみがあった時」には安心度は「0%（全く安心ではない）」であった。「保護者が学校教師に個別相談をした時」「保護者が学校以外の医療機関で相談をした時」「児童の他害行動が一時的に減少した時」には、安心度は「25%（やや安心ではない）」となった。「学校が医療機関に情報提供を行うなどの連携をした時」には「安心度50%」となり、「学校における支援体制が充実した時」「学校・医療機関・保護者の3者間で情報共有をすることができた時」は「安心度75%（やや安心である）」で「安心感」が最も高くなった。

【考察】

問題行動が単に減少することや保護者の不安な気持ちを聞くだけの相談よりも、子どもと保護者を取り巻く支援機関が連携すること、学校が組織全体で共通した方針で取り組むこと、現状に加えて支援方針や内容、また今後の見通しについて保護者自身が知ることが、より大きな「安心感」につながる事がうかがえた。

今後は、児童の年齢や実態の違いに応じた保護者の「安心感」につながる要因や有効な相談の時期やあり方を検討していくことが望まれる。

P1-004

聴覚に過敏のある自閉症スペクトラム児（者）への歯科治療時のイヤーマフ応用効果

吉田 陽佳、梅津 糸由子、岩崎 てるみ、
新見 嘉邦、白瀬 敏臣、内川 喜盛

日本歯科大学附属病院 小児歯科

【目的】

自閉症児（者）に歯科治療時の対応の一手法として行動観察を行いイヤーマフの効果について検討したので報告する。

【対象ならびに方法】

対象は、歯科診療時にイヤーマフの応用を希望した聴覚過敏のある自閉症児（者）のうち、本調査の目的と内容を説明し同意の得られた12名（8歳～18歳平均年齢11.9±4.2歳）とその保護者である。行動観察は、入室時、診療時、退室時の行動をビデオにて記録し、顔の表情、手足の筋の緊張、体動について外部行動の変化を歯科医師が評価した。通院時、家庭内での様子については保護者に口頭にて確認した。

【結果】

1. 視覚支援を併用している者は6名であった。イヤーマフを診療以外で応用している者は2名であった。イヤーマフの導入後のトレーニングは1から3回であった。2. 診療室への入室行動は、導入前7名が入室の際、介助者による誘導が必要であったのに対し、導入後は2名となった。3. 診療室での行動は「コントラ」、「バキューム」は12名が表情の変化ならびに体動なく行えた。「タービン」は1名が表情の変化、手の動きをみとめ、「超音波スケーラー」は2名が表情の変化、手足の緊張がみられた。導入前、絵カードの行動管理ではバキューム操作で、表情の変化や足の硬直を示した6名は、導入後、表情の変化、筋の緊張を示さなかった。導入前、著しい体動のため抑制具使用下で歯科治療を行っていた4名中3名は不適応行動を示さず、2回のトレーニングで齶蝕処置が行えた。PMTCは11名が行えた。4. 待合室、家庭で問題行動を起こす者はなく、導入後、来院を拒否する者はいなかった。

【考察】

聴覚過敏のある自閉症児（者）に対してイヤーマフによる防音は、歯科治療の不安やストレスを軽減する効果があると考えられる。不快音は恐怖や不安の原因となり、トレーニングを妨げ不協力的となることがある。イヤーマフを応用しトレーニングを継続したことで、バキューム操作の拒否改善、体動減少、抑制具を使用せず治療といった適応性の向上、環境変化に気が散ることなく診療に集中するといった効果が得られた。医療面接では感覚過敏を聴取し患者の特性に合わせた対応と併用し、本人と保護者が安心して継続的に受診できる環境設定や対応が重要であると考えられる。聴覚過敏のある自閉症児への歯科治療時のイヤーマフ応用は歯科適応性に変化が見られた。イヤーマフは歯科的支援の一助として歯科適応性の向上に有効である。